



今回は、旭中学校を会場とする第1回【授業研究会】における学びの様子を紹介します。本提案内容は、6月28日(木)に開催される中学校数学授業改善研究協議会で提案される授業についての教材研究に関するものでした。当日は、高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官 齊藤 一弥 先生、信州大学 宮崎 樹夫 教授(数学の新学習指導要領作成に関わられた方)、山梨大学 清水 宏幸 准教授(算数・数学ワーキンググループの委員であり、数学の新学習指導要領に関わられた方)3名の講師をお迎えし、今求められる授業づくりについてのご講話もいただけます。学習指導要領の改訂は授業を見直すチャンスです。たくさんの先生方にご参加いただきますようお願いいたします。

【提案内容】第1学年「式の計算」【授業者】坂元 貴哉 教諭 (高知市立旭中学校)

本時の提案

文字を用いて表現することや、表現された式がどのような意味をもつのか、式が示している意味を読み取ることに課題を感じている。

本単元を通して、文字を用いて数量の関係や法則などを式に表したり、式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いることの良さを実感し、その必要性や意味を理解できるようにしたい。



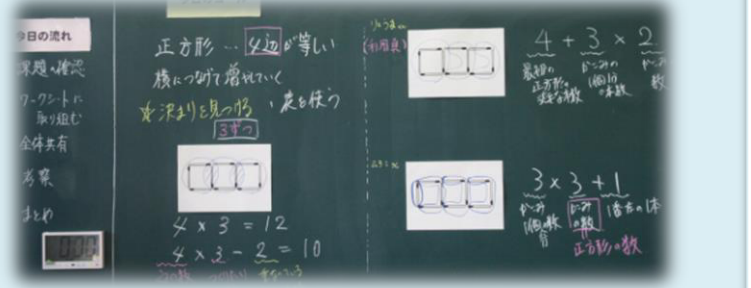
坂元 教諭



模擬授業 協議

《協議内容》

- ・生徒が見方・考え方を働かせて思考していく場面をどこにおくのかを明らかにする。
- ・時間をかける場所をどこにするのか。早い段階から1+3nに絞っていき、m角形に一般化するところを考えさせてもいいのではないか。



講師 高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官 齊藤 一弥 先生の指導



《参会者の感想》

・『中学校学習指導要領解説数学編』を読み込むことはもちろん、小学校の解説もしっかり把握する必要があると改めて感じました。また、「自分ならこう授業する」と事前に解説を読んだり、教材研究を行ったりすることで、教材研究会において新たな視点もいただけて大変勉強になりました。小中の接続を図るためには、まず中学校の教員である私が小学校の学びを知る必要があると思いました。

生徒の実態を問い、思考プロセスをつかむ

- * 小学校からどのように学び進んでいるかという筋道をはっきりともし、中学校のスタートラインの引き直しをする。どこまで下がって引き直しをするのかをつかむ。
- * 本時で大切なこと
 - ①【式の表現】→関係や法則を表すこと。すなわち、一般化するという、更に構造を表現するということ。
 - ②【式の読み】→式の働きのこと。中学校1年生の学習として期待することは、思考プロセスをつかむこと。すなわち、式を見た瞬間その人がどういう風に進んだか分かるということ。これは小学校6年生から期待されることでもある。更に式から具体をイメージすること。
- * 小学校5年生で付けるべき力として
 - A 数量関係を表す式について理解する。
 - I 2つの数量の対応や変わり方に着目する。式で表されている関係を考察する。
- * 小学校の学びの把握から中学校で期待される内容に学び進むまでの手立てを考える。